



2023年12月26日
 東日本旅客鉄道株式会社
 東日本電信電話株式会社
 KDDI株式会社

JR 東日本、NTT 東日本、KDDI、 品川駅周辺エリアにおいて都市 OS を活用したサービス実証で初の共創

東日本旅客鉄道株式会社(以下「JR 東日本」)および東日本電信電話株式会社(以下「NTT 東日本」)、KDDI 株式会社(以下「KDDI」)の3社は、東京都データ連携・活用促進プロジェクト¹の採択を受け、都市 OS²を活用した新たなサービス提供の実証に向けた協定を2023年12月1日に締結しました。本実証では、非常時および平時における混雑緩和を目的に、高輪ゲートウェイ駅と品川港南エリアで鉄道運行データ³と人流データを活用した案内誘導サービスを検証します。今回の取組みを通じて、品川駅周辺エリアにおけるエキマチ一体の新たなスマートシティモデルの実装を目指します。

- 1: デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出す「スマート東京」の実現に向け、データや先端技術を活用したサービスの都市実装を推進する中で、都心部や西新宿など先行実施エリアにおいて構築した都市 OS の取組成果を都内全域へ広げていくため、2023年度より実施されるプロジェクト。
- 2: 街の設備や街の人に関するデータを収集・分析して、そのデータを活用した新たなサービス創出を可能とするデータ基盤。
- 3: 本実証ではダイヤ遅延情報、在線位置情報、編成当たりの乗車人数などをいう。

1 実証概要

本実証では、高輪ゲートウェイ駅と品川港南エリアの街区を対象に、鉄道運行データと人流データを活用して、非常時における「帰宅困難者のスムーズな避難誘導による混乱防止」および平時における「滞在需要創出による都市混雑緩和」に取り組み、都市の社会課題解決を目指します。また、将来的には、エリア間の回遊性・滞在満足度、QoLの向上を目指します。

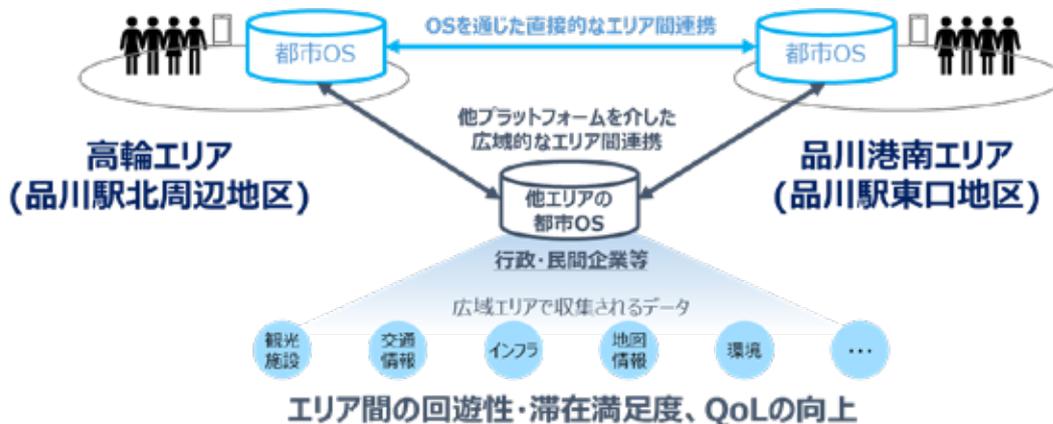


図1 本実証の目指す将来像

(1) 実施期間、場所

期間: 2023年12月1日～2025年3月31日 (駅での実証は2024年3月からを予定)

場所: 高輪ゲートウェイ駅、品川港南エリアの街区 (調整中)

(2) 実施内容

データ連携基盤「都市 OS」の実装と連携エリア拡大の準備

TAKANAWA GATEWAY CITYでの都市 OSの実装に加え、本実証用に他エリアとの連携検証機能を共通の思想で構築し、将来のエリア間データ連携の準備を開始します。

鉄道運行データと人流データを活用した取り組み

首都直下型地震⁴の非常時を想定した案内誘導サービスの検証を行います。具体的には、高輪ゲートウェイ駅や品川港南エリア内の施設 (調整中)において、蓄積された人流データなどの都市 OSのデータを組み合わせ、避難誘導の案内放送、ロボットによるお客さまの誘導を実施し、一時避難と街への誘導をスムーズに行うための検証を行います。

また、平時において、鉄道遅延等による駅や電車の混雑時の誘導や、遅延解消後に帰宅等を促す案内誘導を検証します。

4: 「品川駅・田町駅周辺地域 都市再生安全確保計画」における首都直下型地震を想定した取り組み

(3) 実施体制

JR 東日本、NTT 東日本、KDDI の3社にて推進します。

企業	役割
JR 東日本	全体のマネジメントと高輪ゲートウェイ駅における実証・検証を実施
NTT 東日本	TAKANAWA GATEWAY CITYとの連携検証機能を構築し、品川港南エリアの施設にて高輪ゲートウェイ駅と同様の実証・検討を実施
KDDI	TAKANAWA GATEWAY CITYの都市 OSを構築 ⁵ し、サービス実証及び品川港南エリアとのデータ連携に必要な共通設計を実施

5: TAKANAWA GATEWAY CITYでの取り組みは、JR 東日本とKDDIが場所や時間にとらわれない"くらし"を実現する「空間自在プロジェクト」(<https://kukanjizai.com/>)の一環として取り組んでいます。

2 今後の展望について

実証実験を通じて、TAKANAWA GATEWAY CITYと品川港南エリアのデータ連携に必要な都市 OSの設計思想や基本機能をエリア共同で検討することで、開発が進む品川駅周辺エリアとの連携によるエキマチ一体の新たなスマートシティモデルの実装を目指します。